

## 道内初の「男性尿失禁外来」の開始

～重度の尿漏れに“人工尿道括約筋植込術”で対応～

### 【ポイント】

- ・北海道大学病院に専門外来（毎週木曜）を設置
- ・薬物治療や行動療法で効果が出なかった患者さんに対しても有効な手術療法を提供

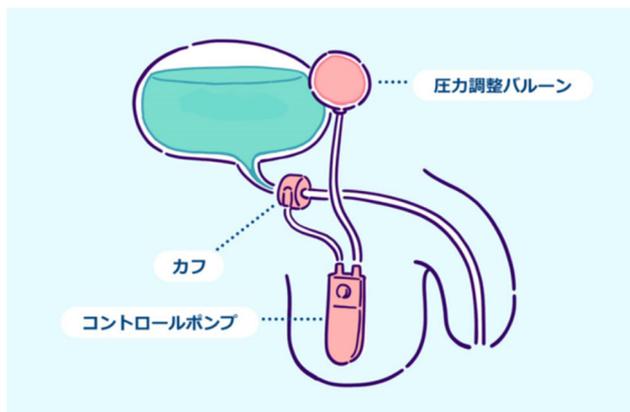
### 【概要】

北海道大学病院は、道内初、国内では 2 番目となる「男性尿失禁（尿の漏れ）専門」の外来を 10 月 24 日から開始しましたので、お知らせいたします。

尿失禁とは自分の意思と関係なく尿が漏れることです。様々な原因がありますが、男性特有の病気である前立腺がんに対して行われることの多い前立腺全摘除術や、前立腺肥大症に対する手術を行った後で、尿失禁が持続し、生活の質に大きな影響を及ぼすことがあります。この外来では、そうした男性特有の尿失禁に対する効果的な治療として、“人工尿道括約筋植込術（以下「尿漏れ手術」\*）”の実施を含む診療を行います。

男性の場合は、解剖学的な観点（尿道が長く、屈曲している）から、女性に比べて尿失禁にはなりにくいといわれています。しかし、前立腺肥大症の術後や、前立腺がんの治療としての前立腺全摘術の術後に尿失禁が持続することがあります。特に前立腺全摘術後では、手術の際に尿道括約筋の一部や括約筋への神経線維を一緒に切除せざるを得ない場合が多く、尿失禁が起こります。手術直後は、多くの方で尿漏れが発生しますが、1 年後には 97%の方が日常生活に困らない程度に尿失禁が改善します。しかし、3%の方では尿漏れが十分に改善せずにおむつや失禁パンツが必要な状態が続くことが起こり得ます。現在は、“がん＝死”ではなく、“がんを治した後の余生をどう楽しむか”という時代に入っており、年間 20,000 件行われる前立腺全摘術後に 500 人以上が重度の尿失禁に悩んでいることが想定されます。しかし、多くの患者さんは、恥ずかしさなどから積極的に受診できていないのが現状です。

今回スタートさせた「男性尿失禁外来」では、この“術後合併症としての重度尿失禁”を治療することを主な目的としています。当外来では、人工尿道括約筋を用いた尿失禁を軽減する手術と、それに関連する診療サービスを提供することで、尿失禁の改善・治療を行っていきます。



写真提供 ポストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

### 【用語の説明】

\* 「尿漏れ手術」

患者さんが尿道の開閉を自分でコントロールし、正常な尿道括約筋の機能を代替する機器を植込む手術です。すべて体内に植込まれ、外からは一切見えません。

### お問い合わせ先

北海道大学病院泌尿器科 橋田 岳也 (きった たけや)

T E L 011-706-5772 F A X 011-706-7853 メール [kitta@fb3.so-net.ne.jp](mailto:kitta@fb3.so-net.ne.jp)

### 配信元

北海道大学病院総務課広報・国際企画係 (〒060-8648 札幌市北区北 14 条西 5 丁目)

T E L 011-706-7631 F A X 011-706-7627 メール [pr\\_office@huhp.hokudai.ac.jp](mailto:pr_office@huhp.hokudai.ac.jp)